

第2回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

日 時 令和2年11月4日(水)

19:00～20:55

場 所 総合福祉センター「ハピネス」

《森林商工振興課所管施策》

出席者(委員)：及川部会長、三津橋副部会長、筒淵委員、渡邊委員、西村委員、
田中委員、山田委員

出席者(町)：栗原課長、平野主幹、高原主幹、山本主幹、今主査、斎藤主査、
渡邊主査、伊東主事、佐藤主事、杉山主事、藤原事務補

▽施策項目「産業」

事務事業名「産業活性化支援事業」

町：内容説明

委員：定住、移住の割合と、どのような年齢層が移住してきているのか。
移住後の支援は行っているのか。

町：年間150名～200名程度移住している。内30名程度がタウンプロモーション推進部を通じての移住。30、40代の方が多い。何かしらの目的をもって移住している。タウンプロモーション推進部を通じて移住してきた方は、8割以上の方が定着している。月一のタノシモカフェで交流の場を設けている。問い合わせがあれば、生活の相談にも乗っている。

委員：定住支援フォローが大変と聞いた。知り合いをつなぐ、本人の責任もそうだが、ほかの人につなぐ工夫を。

町：住宅ならクラスターなどつげなげる部分は繋いでいる。ロバの耳というSNSでの移住相談をやっているが実績がない。直接の訪問が多い。

委員：HP作成などは外注か。

町：そうである。

▽施策項目「産業」

事務事業名「一の橋バイオビレッジ」

町 : 内容説明

委員 : 当初から地域おこし協力隊の目的、高齢者支援や地域食堂の意味合い、状況が変わってきている。見直すべきでは。

町 : 当時、一の橋住民の高齢者は50%超であった。現在では30%を切っている。地域食堂の利用者も変わってきている。見直しの具体的なプランはない。個人的な考えとしては、地域食堂について3年更新の地域おこし隊の運営ではなく、運営を公募するなど運営方法を再検討していきたい。移動販売については、地域に若干だがニーズはある。山びこ学園からもニーズがある。今後利用状況を鑑み、拡大か縮小を検討していく。

委員 : 集住化の空き部屋状況は。

町 : 26部屋中4部屋である。退去後人が入らず空き部屋になる傾向である。

委員 : 空き部屋の増加や、一の橋の人口減少対策等は。

町 : しいたけの雇用が大きくなれば居住者が増える。一の橋を好む移住者も。昨年までは、空いたら人が入った。

地域おこし協力隊については、3年後を見据えて伴走していきたい。

人の呼び込みはタウンプロモーション推進部と連携して進めていく。移住のカギは住居という話もある。

公共施設名「林業総合センター」

町 : 内容説明

委員 : 森林組合の移転先の予定はあるのか。新築なら支援を考えているのか。

町 : 農協、商工会の例などを踏まえ何かしらの支援は必要であると感じている。森林組合も新築ではなく代替の事務所を検討していると言っている。

委員 : 指定管理料について簡単に説明を願う。林業センターの積算積み上げはどうなっているのか。ベールに隠された費用が多いと感じている。

町 : 人件費、保険料、消耗品、除雪経費、上下水道、電気、燃料費、軽微な修繕など計上している。全体の30%は持ち分登記し組合持ちである。その他部分を指定管理している。

公共施設名「木質原料製造施設」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 木質原料施設について原料確保はできているのか。
- 町 : 安定的に町有林などから集めている。林地残材、低質材を活用している。
- 委員 : 国有林の材はどうか。共同土場の運営は。
- 町 : 財産管理はそれぞれ。
- 委員 : 木質原料施設 H30 と R1 の受け入れ台数が倍になっているがなぜか。
- 町 : 名寄河川が河川支障木伐採を集中期間で実施している

公共施設名「五味温泉」

- 町 : 内容説明

公共施設名「結いの森」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 結いの森に限ってではないが、指定管理に関して町はどれくらい口を出しているのか。赤字経営が続いているが、調書は現状維持でいいのか。町が対策しなくてはいけない。
- 町 : 町からは経費の削減、集客努力を促している。
- 委員 : 今後の方向性として改善案が調書に乗ってきていないのがおかしいのではないか。昨年にも話はしている。
- 町 : 補足として、宿泊者にしもりんポイントの付与などの集客イベントをうとうとしていた。だが、今年度コロナで実施できていない。担当課としては努力をしている。
- 委員 : 2,000 円のしもりんは町内向けに発信していないのか。
- 町 : 町外、観光客向けに周知している。
- 委員 : 町内の人が町外の親戚等と呼ぶことも考えられるので、町内向けの発信もするべきでは。

公共施設名「地域間交流施設「ヨックル」」

- 町 : 内容説明

- 委員 : ヨックルは指定管理料50万円を町が先にもらっているのか。
- 町 : 年度末にもらっている。収益の出る施設とみていたため、指定管理者からもらう形。コロナの影響で状況は変わっている。
- 委員 : 貸館廃止とはA棟を止めるということか。
- 委員 : A棟以外も時間貸しをしている。貸館とは時間貸しの話だと思う。
- 町 : 貸室は五味温泉でもやっているが、料金は条例に基づいたもので、かなり低い設定。普通の会議室であれば片付けて帰るが、宿泊施設ということもありそのままにされる。宿泊施設に貸室はそぐわないという考え方。ただ、町民の利用者向けに詳細は詰めていく必要がある。料金設定が会議室等と変わらないため、時間貸しでもそれなりの値段をつけていくことも考えている。

公共施設名「まちおこしセンター「コモレビ」」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 24時間トイレを試行的に行う理由は
- 町 : 錦町トイレの廃止に伴い試験的な話ができたため。今後、まちおこしセンター運営協議会の中で協議していく。

公共施設名「恵林館」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 頑丈な梁など入っているが、見た目以上に痛みは大きい。もうそろそろ壊すべきではないか。修繕や雪おろしなど維持経費もかさむ
- 町 : 歴史的経緯を踏まえ、考えていかななくてはいけない。

公共施設名「特用林産栽培研究所」

- 町 : 内容説明
- 委員 : 今の生産量、売上金額で民間移行して移行先はやっていけるのか。
- 町 : 単に施設を残すだけでなく雇用の創出も含んでいる。肌感覚では、民間経営だとよくてトントン。出荷先の信用を得るためや、運転資金がショートしないよう町で何らかの支援は必要になると思う。